

令和7年度

## 青森県立高等学校入学者選抜学力検査の結果

学 校 教 育 課  
総合学校教育センター

青森県教育委員会は、令和7年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査を3月6日(木)に実施し、6,622人が受検した。

学力検査の実施教科、検査時間は、国語と英語が50分、数学、社会、理科が45分であり、配点は、各教科とも100点満点で、国語には16点、英語には27点の放送による検査問題が含まれている。

各教科の受検者全体の得点は、下の得点一覧表に示す結果となった。平均点を前年度と比較すると、社会が1.0点上回り、国語が6.1点、数学が5.5点、理科が11.3点、英語が1.4点下回った。

なお、学力検査問題は、中学校学習指導要領に示された各教科の内容から、「令和7年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査問題作成方針」に基づいて出題されている。

以下、各教科ごとに、受検者の誤答傾向と問題別正答率について述べる。

得点一覧表

得点区分	国語		社会		数学		理科		英語	
	人数	%								
100	0	0.0	11	0.2	2	0.0	2	0.0	23	0.3
90～99	54	0.8	318	4.8	10	0.2	111	1.7	552	8.3
80～89	482	7.3	821	12.4	162	2.4	385	5.8	671	10.1
70～79	1,297	19.6	1,077	16.3	897	13.6	653	9.9	667	10.1
60～69	1,593	24.1	1,041	15.7	1,316	19.9	822	12.4	721	10.9
50～59	1,422	21.5	1,032	15.6	1,172	17.7	1,053	15.9	790	11.9
40～49	921	13.9	962	14.5	963	14.5	1,099	16.6	903	13.6
30～39	527	8.0	694	10.5	827	12.5	1,061	16.0	942	14.2
20～29	229	3.5	424	6.4	579	8.7	779	11.8	855	12.9
10～19	81	1.2	205	3.1	460	6.9	523	7.9	428	6.5
0～9	13	0.2	34	0.5	231	3.5	131	2.0	67	1.0
0(再掲)	0	0.0	1	0.0	20	0.3	3	0.0	1	0.0
全教科受検者数	6,619	100.0	6,619	100.0	6,619	100.0	6,619	100.0	6,619	100.0
平均点	58.7		58.1		48.8		47.6		53.1	
標準偏差	16.0		20.7		20.1		21.0		24.3	
最高点	97		100		100		100		100	
最低点	2		0		0		0		0	
前年度平均点	64.8		57.1		54.3		58.9		54.5	

\*得点一覧表の各教科の値(%)は、全教科受検者に占める得点区分ごとの受検者の割合を表したものである。小数第2位を四捨五入しているため、人数が0人でなくても0.0%になる場合や合計が100%にならない場合がある。

## 国 語

①の放送による検査は、学校を紹介するパンフレットを作るための話し合いを資料を見ながら聞き、内容や展開を捉える力、聞き取った内容をもとに、条件に即して適切に表現する力をみる問題である。(1)は、「班のテーマ」について聞き取る問題であり、正答率は約9割であった。(2)は、「インタビューのよさ」について聞き取る問題であり、正答率は約6割であった。(3)は、矢野さんから吉川さんへの質問として適切なものを選ぶ問題である。本文の内容とは異なる「1」を選んだ誤答が多く、正答率は約5割であった。(4)は、インタビューの内容から資料と関連付けて矢野さんが伝えたいことをまとめる問題である。「楽しかった」という内容が不足しているために減点されているものが多く、正答率は約3割であった。話の展開に注意して、要点を整理しながら聞き取る力を伸ばしていくことが重要である。

②は、漢字の問題である。(1)の読字の正答率は約7割であり、誤答として、イ「りゅうせい」を「たかもり」などと読んだものが多かった。書字の正答率は約7割であり、誤答として、ク「裁量」を「最良」などと書いたものが多かった。文脈に合わせて正確に意味を判断し、適切な漢字を用いる力を養うとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることが大切である。(2)は、漢字の行書の特徴についての理解をみる問題であり、正答率は約8割であった。

③は、『俊頼髓脳（としよりずいのう）』と『論語』からの出題である。(1)アは、歴史的仮名遣いを読む力をみる問題であり、正答率は約9割であった。(1)イは、文章の展開に即して内容を捉え、「ひとつのこと」が示している内容として適切なものを選ぶ問題であり、正答率は約8割であった。(1)ウは、文章の展開に即して内容をまとめる問題である。「発想」「表現」という内容が不足しているために減点されているものが多く、正答率は1割を下回った。条件に即して適切に表現する力を育成することが一層求められる。(2)アは、漢文のきまりに従って返り点をつける問題であり、正答率は約8割であった。(2)イは、文章の展開に即して内容を捉え、「曾子」が言った内容として適切なものを選ぶ問題であり、正答率は約7割であった。文章の構成や展開に着目して内容を捉える力をより高めることが重要である。

④は、毛内拓（もうない ひろむ）の『「気」の持ちよう』の脳科学』からの出題である。(1)は、品詞についての理解をみる問題である。動詞の活用形が異なる「2」「3」を選んだ誤答が多く、正答率は約5割であった。(2)は、文章の展開に即して内容を捉え、空欄に適する語句を抜き出す問題である。文脈に即していない「構成」「はたらきをもつ実体」を抜き出しているものが多く、正答率は約5割であった。(3)は、文章の展開に即して内容を捉え、空欄に入る適切な内容をまとめる問題である。「連続した」という内容が不足しているために減点されているものが多く、正答率は約3割であった。(4)は、文章に表れているものの見方や考え方を捉える問題である。Iは、『わたし』ではなく他人だ』と言っている理由についてまとめる問題であるが、「経験が違う」という内容が不足しているために減点されているものが多く、正答率は1割を下回った。IIは、見出しの空欄に入る語句を抜き出す問題であり、正答率は約7割であった。(5)は、文章の展開に即して内容を捉え、文章の内容について述べたものとして適切なものを選ぶ問題であり、正答率は約7割であった。文章に表れているものの見方や考え方について、書き手の論理の展開に即して適切に読み取る力を伸ばしていくことが重要である。

⑤は、高樓方子（たかどの ほうこ）の『黄色い夏の日』からの出題である。(1)は、品詞についての理

解をみる問題である。品詞が異なる「1」を選んだ誤答が多く、正答率は約5割であった。(2)は、文章の展開に即して内容を捉え、「しゃきとした印象」について適切なものを選ぶ問題であり、正答率は約8割であった。(3)は、文章の展開に即して内容を捉え、「この人を描いてみたい」と思った理由についてまとめる問題である。「迫力と優しさ」という内容が不足しているために減点されているものが多く、正答率は約2割であった。(4)は、文章の展開に即して内容を捉え、「小谷津さん」の思いについてまとめる問題であり、正答率は約6割であった。(5)は、文章の展開に即して内容を捉え、空欄に適する語句を抜き出す問題である。「潜めた声」を抜き出しているものが多く、正答率は約4割であった。(6)は、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、物語の場面が変わったことがわかる理由について文章中から引用してまとめる問題である。抜き出し箇所と読み取った内容が一致していないために減点されているものが多く、正答率は約1割であった。文章の構成や展開、表現の仕方について考え、登場人物の言葉や行動に着目しながら文章を読むことが大切である。

⑥は、新聞のコラムから読み取った内容をもとに、意見文を書く問題である。コラムの2つの文章をもとに自分の意見を書き、それを踏まえて意見の理由を書く、という条件に即して論理的に文章を書く力が求められる。意見とその理由との整合性がとれていないために減点されているものが多かった。文章から読み取った内容について自分の意見をもち、その理由が分かりやすく伝わる文章になるように工夫して書くことが大切である。

国語では、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、文章の構成や展開、表現の仕方に注意して内容を正確に捉える力や、条件に即して適切に表現する力を育成することが望まれる。

### 問題別正答率 国語

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)					
①	(1)	4	放送料を聞く	話の内容と資料との関連を考えて聞き取る。	90.9	④	(1)	4	品詞について理解する。	49.7		
	(2)	4	話の内容を的確に聞き取る。	57.5	(2)		A	2	説明的文章を読む	文章の展開に即して内容を捉える。	68.4	
	(3)	4	話の全体と部分との関係に注意して聞き取る。	50.4	(2)		B	2	文章の展開に即して内容を捉える。	36.1		
	(4)	4	発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる。	30.5	(3)		4	文章の展開に即して内容を捉えてまとめる。	32.5			
②	(1)	1	読	贈呈	97.7	(4)	I	4	文章に表れているものの見方や考え方を捉えてまとめる。	9.7		
				隆盛	35.3		II	2	文章に表れているものの見方や考え方を捉える。	70.6		
				隆索	68.7		(5)	4	文章の展開に即して内容を捉える。	66.5		
				拭う	91.5		(1)	4	品詞について理解する。	52.2		
				論ず	68.1			(2)	4	文章の展開に即して内容を捉える。	83.5	
				職務	68.6			(3)	4	文章の展開に即して内容を捉える。	19.3	
	(2)	2	書	民衆	67.2	(5)	(4)	4	文章の展開に即して内容を捉える。	57.9		
				裁量	26.2		A	2	文章の展開に即して内容を捉えてまとめる。	34.6		
				逆らって	85.8			B	2	文章に表れているものの見方や考え方を捉えてまとめる。	38.2	
				暮れる	86.6		(6)		6	文章の展開に即して内容を捉える。	14.3	
				漢字	漢字の行書の特徴について理解する。		75.5	⑥	10	を 意 書 見 く 文	新聞のコラムから読み取った内容をもとに、自分の意見を書く。	平均点 6.2
				古文	歴史的仮名遣いについて理解する。		92.6					
				(1)	4		読					
文章の展開に即して内容を捉えてまとめる。	8.6											
漢文	漢文のきまりに従って返り点をつける。	76.1										
(2)	2	読	文章の展開に即して内容を捉える。	72.2								

## 社 会

①は、北アメリカ州やヨーロッパ州の地域的特色に関する問題である。(3)アは、資料や略地図から地中海沿岸で多く栽培される農産物を思考・判断する問題であり、正答率は約6割であった。誤答は、「2」や「3」を選んだものが多かった。(4)は、カナダ、アメリカ、フランス、ドイツ、日本の発電量と発電エネルギー源別割合を表す資料からアメリカとドイツについて表しているものを選ぶ問題であり、正答率は約3割であった。誤答は、「1・5」や「1・3」、「2・5」など多岐にわたった。地図や資料を活用する地理的技能を身に付けるとともに、人々の生活と自然環境を関連付けながら、世界の諸地域の特色について理解することが大切である。

②は、中部地方、北海道地方の地域的特色に関する問題である。(2)イは、北見市、別海町、帯広市、新篠津村の農業産出額を表した資料から別海町を表しているものを選ぶ問題であり、正答率は約4割であった。誤答としては、「1」や「3」、「4」と多岐にわたった。(3)は、就業者数と産業別就業者割合を表した資料から北海道と静岡県を表す資料を選択する問題であり、正答率は北海道が約3割、静岡県が約5割であった。写真や統計資料などの諸資料から情報を正確に読み取る中で、自然環境や産業に関する地理的事象を相互に関連付けながら、日本の諸地域の地域的特色を多面的・多角的に考察していくことが大切である。

③は、古代から近世までの宗教や文化に関する問題である。(4)は、資料の読み取りを踏まえて豊臣秀吉が出したバテレン追放令であることを判断し、それが出された時期として適切なものを年表から選ぶ問題であり、正答率は約3割であった。誤答は、「3」や「4」を選んだものが多かった。(6)は、尊王攘夷運動が盛んになったきっかけを与えられた条件に即して適切に表現する問題であり、正答率は3割であった。誤答としては、「朝廷に政権を返上する」や「朝廷をたおそうとした」など、幕府が外国と通商条約を結んだことに関連付けて思考・判断・表現することができなかつたものと思われる。各時代の特色を大きく捉え、政治の展開や文化の特色などに着目して、学習した内容を比較したり関連付けたりしていくことが大切である。

④は、近代、現代の日本の経済に関する問題である。(4)は、第一次世界大戦から太平洋戦争までの時期に起こった世界の出来事を年代の古い順に並べ替える問題であり、正答率は約4割であった。第一次世界大戦後の国際協調の動きが、世界恐慌による経済混乱やファシズム諸国の動きによって動揺し、第二次世界大戦の勃発につながるという世界の歴史の大きな流れについての理解が十分ではなかつたものと思われる。(6)は、朝鮮戦争が日本の経済に与えた影響を与えられた条件に即して適切に表現する問題であり、正答率は約4割であった。軍需物資が大量に生産された背景について言及されていないものが多く、冷戦の動向と日本の経済復興を関連付けて思考・判断・表現することができなかつたものと思われる。世界の動きと日本との関連を踏まえたうえで日本の社会の変化を捉え、学習した内容を比較したり関連付けたりしていくことが大切である。

⑤は、日本の裁判制度に関する問題である。(3)は、司法制度改革について述べた文の正誤の組み合わせとして適切なものを選ぶ問題であり、正答率は約4割であった。誤答としては、「2」が多くみられ、裁判員制度の内容についての理解が十分ではなかつたものと思われる。(5)は、違憲審査制についての理解をみる問題であり、正答率は約6割であった。誤答としては、最高裁判所が最終決定権を持っていることへの言及がないものや、空欄が多かつた。個人の尊重と法の支配に着目して、法に基づく公正な裁判によって国民



## 数 学

①は、基礎的・基本的な知識や技能をみる問題である。(1)の正答率は約8割であり、数と式についての基本的な計算に対する知識や技能は定着していると思われる。(2)は、数量の関係を不等式で表す問題であり、正答率は約7割であった。(3)は、ヒストグラムから相対度数を求める問題であり、正答率は約7割であった。(4)は、二次方程式を解く問題であり、正答率は約7割であった。(5)は、あたりくじをひく確率を求める問題であり、正答率は約6割であった。(6)は、2つの三角形でつくられる角の大きさを求める問題であり、正答率は約7割であった。(7)は、ことからの起こりやすさについて述べた文として適切でないものを選ぶ問題で、正答率は約6割であった。(8)は、比例のグラフから、 $y$ の値に対応する $x$ の値を求める問題であり、正答率は約4割であった。誤答としては「22分5秒」が多く、式から求めた数値を時間に変換する計算処理ができなかったと思われる。

②は、平面図形や文字を用いた式についての知識や技能を用いて思考・判断し、数学的に処理する力をみる問題である。(1)は、2点を通る円の中心を作図する問題であり、正答率は約6割であった。(2)は、生徒の会話を読み取り、適切な式を答える問題であり、正答率は㊸が約7割、㊹が約6割、㊺が約7割、㊻が約4割であった。数の積の性質を理解し、予想が正しいことを示す計算過程を説明できなかったと思われる誤答が多かった。

③は、図形について、数学的に考察する過程で見通しを立てて思考・判断し、的確に表現する力をみる問題である。(1)アは、1組の三角形が相似であることを証明する問題であり、正答率は約3割であった。相似関係にある2つの三角形について、図形の性質を論理的に考察し、表現することができなかったと思われる。(1)イ(ア)は、(1)アの証明で明らかになった1組の三角形が相似であることを利用して線分の長さを求める問題であり、正答率は約6割であった。(1)イ(イ)は、図形の性質を見だし、線分の長さを求める問題であり、正答率は1割を下回った。 $\triangle BGE$ が二等辺三角形になることを見いだせず、三平方の定理を利用して線分の長さを求めることができなかったと思われ、誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。(2)アは、三角柱の一边と垂直な面を答える問題であり、正答率は約4割であった。誤答としては「面 $ABED$ 、面 $ACFD$ 」が多く、直線と平面が垂直となる位置関係を正しく理解できていなかったと思われる。(2)イは、底面と垂直になる三角形の面積を求める問題であり、正答率は1割を下回った。空間における直線や平面の位置関係についての知識が十分に定着していないと思われ、無解答が多かった。図形がもつ性質を多面的に捉える力を育成することが一層求められる。

④は、関数や図形についての知識や技能を用いて思考・判断し、数学的に処理する力をみる問題である。(1)は、 $y$ の変域を求める問題で、正答率は約6割であった。(2)は、三角形の面積を求める問題で、正答率は約5割であった。直線 $AB$ の切片を正しく求めることができなかったと思われる誤答が多かった。(3)アは、直線の傾きを求める問題であり、正答率は約3割であった。与えられた $t$ の値を代入する計算処理を正しくできなかったと思われる。(3)イは、 $t$ の値を求める問題であり、正答率は1割を下回った。与えられた条件を図形的に捉え、傾きを表していることが理解できていなかったと思われ、誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。

⑤は、三平方の定理を用いた計算過程に着目し、数学的に正しく表現・処理することや、図形の条件を変

えて考察範囲を広げた場合に用いられている図形の性質や関係を明らかにする過程で、数学的な見方・考え方を働かせて発展的に考察する力をみる問題である。(1)は、線分 BH の長さを求める計算過程にどのような間違いがあるのかを説明した上で、線分 AH の長さを正しく求める問題であり、正答率はそれぞれ約 1 割、約 2 割であった。考察した結果を言葉や数、式といった様々な表現を用いて説明したり、三平方の定理を目的に応じた形で活用したりすることができなかつたと思われる誤答が多かつた。(2)アは、三角形の面積を素因数分解した形で表す問題であり、正答率は約 4 割であった。問われていることを数学的に解釈することができなかつたと思われる。(2)イは、式の値を求める問題であり、正答率は約 1 割であった。解決の見通しをもつとともに、問題の条件や仮定を見直すことができなかつたと思われ、誤答は多岐にわたり、無解答も多かつた。(2)ウは、三角形の1辺の長さを求める問題であり、正答率は約 1 割であった。 $\angle A$  の大きさに着目し、図形の性質を捉えることができなかつたと思われ、誤答は多岐にわたり、無解答も多かつた。(2)エは、三角形の面積を求める問題であり、正答率は 1 割を下回つた。円周角の定理と特別な直角三角形の辺の比を用いて、解決するための本質的な条件を見いだすことができなかつたと思われ、誤答は多岐にわたり、無解答も多かつた。解決過程や結果から得られる複数の条件の中で、必要な情報を読み取つて思考・判断し、表現することで、問題発見・解決の過程において数学的に考える力を伸ばしていくことが重要である。

数学では、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、数や式を形式的に処理するだけではなく、数量や関数、図形、データの活用などに関して基礎となる原理や法則についての理解を深め、筋道を立てて思考・判断・表現する力を育成することが望まれる。

### 問題別正答率 数 学

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)					
1	ア	3	数と式 正負の数の計算	3	ア	4	図形 三角形の相似の証明	97.0	32.8			
	イ	3						88.7		59.7		
	ウ	3						80.2			2.7	
	エ	3						83.0				40.8
	オ	3						66.4				
	(2)	4	数と式 不等式	(1)	2	関数 y の変域	57.9					
	(3)	4	データの活用 相対度数	(2)	3	三角形の面積	45.0					
	(4)	4	数と式 二次方程式	(3)	3	直線の傾き	34.2					
	(5)	4	データの活用 確率	イ	4	x 座標の値	1.6					
	(6)	4	図形 角の大きさ	5	1	記述 線分	2	数と式 図形 三平方の定理と円周角の定理の利用	14.8			
	(7)	4	データの活用 ことがらの起こりやすさ						21.5			
	(8)	4	関数 比例	ア	2	38.9						
	2	(1)	3	図形 作図	イ	3	11.0					
(2)		2	数と式 式による説明	ウ	3	11.3						
		2		エ	4	0.2						
		2		64.8								
		2		65.5								
		3		41.8								

## 理 科

①は、生物・地学分野の小問集合である。(1)アは、イヌワラビの葉の裏側にみられるつくりについての理解をみる問題で、正答率は約7割、(1)イは、シダ植物と種子植物の共通する特徴を選ぶ問題で、正答率は約8割であった。(2)アは、被子植物の減数分裂についての理解をみる問題で、正答率は約8割、(2)イは、被子植物の受粉したあとの様子に関する問題で、①、②、③の正答率はそれぞれ約7割、6割、8割であった。(3)アは、前線と暖気や寒気の関係についての理解をみる問題で、正答率は約4割であった。誤答としては「2」を選んだものが多く、前線の構造を理解できていなかったものと思われる。(3)イは、前線が通過する際の雨の降り方の違いを記述する問題で、正答率は約6割であった。(4)アは、月の運動と見え方についての理解をみる問題で、正答率は約7割であった。(4)イは、月が南中する時刻の変化を求める問題で、正答率は約2割であった。誤答は多岐にわたり、月と地球の運動について正しく理解できておらず、無解答も多かった。生物的・地学的現象についての基礎的な知識は概ね身に付いていると思われるが、これらをもとに理科の見方・考え方を養い、それを働かせて科学的に探究していくことが大切である。

②は、化学・物理分野の小問集合である。(1)は、密度の公式を用いて質量を求める問題で、正答率は約3割であった。誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。(2)アは、原子の成りたちについての理解をみる問題で、正答率は約7割であった。(2)イは、塩化銅が水に溶け、電離している様子の模式図を選ぶ問題で、正答率は約4割であった。誤答としては「3」が多く、イオンの化学式と水溶液中の個数の関係を理解していなかったものと思われる。(3)アは、フックの法則とばねを引く力の大きさの比を求める問題で、正答率は約3割であった。②を「1.25倍」とする誤答が多かった。(3)イは、ばねの伸びから異なるおもりの質量を求める問題で、正答率は約3割であった。おもり1個でのばねの伸びである「2.8」など、誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。(4)アは、コイルに電流を流したときのコイルのまわりの磁界の向きを選ぶ問題で、正答率は約3割であった。Bを「南」とする誤答が多かった。(4)イは、条件を変えたときの磁針の向きを選ぶ問題で、正答率は約5割だった。化学的・物理的現象についての基礎的な知識は概ね身に付いていると思われるが、科学的な見方や考え方を働かせ、結果を分析して解釈する力を養っていく必要がある。

③は、からだが動くしくみに関する問題である。(1)アは、手をにぎられるという刺激を受け取る感覚器官についての理解をみる問題で、正答率は約3割であった。誤答としては「手」、「感覚神経」など多岐にわたっていた。(1)イは、刺激を受け取ってから反応が起こるまでの1人当たりの時間を求める問題で、正答率はそれぞれ約7割、1割であった。②は「0.243秒」としたものなど、誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。(2)アは、反射についての理解をみる問題で、正答率は約9割であった。(2)イは、腕が曲がるときの筋肉と関節のはたらきについての理解をみる問題で、正答率は約6割であった。(2)ウは、熱いものに手を触れてから熱いと感じる前に手が離れる理由を表現する問題で、正答率は約3割であった。誤答としては「熱の刺激が脳を通らずにせきずいからの命令が筋肉に伝わる」とした記述が多く、多岐にわたっていた。

④は、炭酸水素ナトリウムの分解に関する問題である。(1)アは、生成する水を確認するための試験紙についての理解をみる問題で、正答率は約6割であった。(1)イは、炭酸水素ナトリウムと炭酸ナトリウムの性質について選ぶ問題で、正答率は約6割であった。(1)ウは、炭酸水素ナトリウムの分解を化学反応式で表す問題で、正答率は約2割であった。炭酸水素ナトリウムや炭酸ナトリウムの化学式を正しく表現できて

いない誤答が多かった。(2)アは、炭酸水素ナトリウムと炭酸ナトリウムの質量をグラフで表現する問題で、正答率は約8割であった。(2)イは、加熱後に残った炭酸ナトリウムの質量を求める問題で、正答率は約5割であった。(3)は、混合物に含まれる炭酸水素ナトリウムの質量の割合を求める問題で、正答率は1割を下回った。誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。与えられた質量の関係を理解し、数値を的確に処理することができなかつたと思われる。

⑤は、物体を引き上げるときの仕事に関する問題である。(1)は、ばねばかりが示す値を求める問題で、正答率は約7割であった。(2)は、動滑車を用いた場合の仕事率を求める問題で、正答率は約2割であった。誤答としては、「6.4」など、多岐にわたっていた。(3)は仕事の原理に関する問題で、正答率は約8割であった。(4)アは、運動エネルギーと力学的エネルギーについて選ぶ問題で、正答率は約2割だった。誤答は多岐にわたり、力学的エネルギーの保存について正しく理解できていないものと思われる。(4)イは、モーターが消費した電気エネルギーのうち、仕事に利用された割合を求める問題で、正答率は約1割であった。誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。実験3の結果を思考・判断し、数値を的確に処理することができなかつたと思われる。

⑥は、火成岩に関する問題である。(1)は、等粒状組織についての理解をみる問題で、正答率は約7割であった。(2)は、双眼実体顕微鏡の使い方の手順についての理解をみる問題で、正答率は約3割であった。誤答は多岐にわたり、双眼実体顕微鏡の使い方の手順について正しく理解できていなかったものと思われる。(3)は、玄武岩と流紋岩をつくるマグマの粘性と噴火の様子に関する問題で、正答率は約6割であった。(4)は、安山岩と花こう岩の両方を選ぶ問題で、正答率は約4割であった。誤答の組み合わせは多岐にわたり、火成岩の特徴を正しく理解できていなかったと思われる。(5)は、火山岩の成因について表現する問題で、正答率は約5割であった。

理科では、観察、実験の内容や結果を正確に読み取って考察する力や、グラフや表から得られた複数の情報を目的に応じて整理し活用する力に加え、科学的に思考・判断し、その過程を含め、適切に表現する力を育成することが望まれる。

### 問題別正答率 理科

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)
1	(1)	ア	2	4	(1)	ア	2
		イ	3			イ	2
	(2)	ア	2		ウ	3	
		①	1		(2)	ア	3
		②	1			イ	3
	③	1	(3)		4		
	(3)	ア	2		(5)	(1)	2
		イ	3			(2)	3
		ア	2			(3)	3
		イ	3			ア	3
2	(1)	3	6	イ	4		
		ア		2	(1)	2	
	イ	3		(2)	3		
	ア	2		(3)	3		
	イ	3		(4)	3		
	ア	2		(5)	(1)	2	
	イ	3			(2)	3	
	3	(1)		ア	2	6	(3)
イ			2	(4)	3		
①		2	(5)	4			
②		2	(1)	ア	2		
イ		3		イ	2		
ア		2		イ	2		
イ		3		ウ	4		
(2)		ア	2	(2)	ウ		4
	イ	3	ア		2		
(2)	イ	3	(2)	イ	3		
	ウ	4		ウ	4		

## 英 語

①は、放送による問題である。(1)は、英語による説明と質問を聞いて適切な絵や表現を選ぶ問題で、正答率は、アが約4割、イが約5割、ウが約6割であった。いずれも英文を部分的に聞き取ったと思われる誤答が多く見られた。(2)は、授業での連絡を聞いて、その内容についての質問に対する適切な答えを選ぶ問題で、正答率は、アが約8割、イが約9割、ウが約6割であった。(3)は、対話を聞いて、その内容についての質問に対する適切な応答を選ぶ問題で、正答率は、アが9割を上回り、イが約7割であった。(4)は、外国語指導助手の話を受けて、質問に対する自分の考えを適切に英文で表現する問題である。誤答としては、動詞や目的語などの必要な語が不足しているものや、時制が正しく用いられていないものも多く見られた。問いの内容を正しく理解した上で、自分の考えを適切に英語で書く力を高めていく必要があると思われる。

②は、中学生とカナダ人留学生による、「動物園に出かける約束」についての対話を題材とした問題である。(1)は、英文の意味が通るように、与えられた語句を並べ替える問題であり、正答率は、ア、イがそれぞれ約4割、ウが約2割であった。アは、「助動詞で始まる疑問文」及び熟語の「would like to」を問う問題である。「Would you like」の直後に「to」を続けていない誤答が多いことから、「would like to」という表現が十分定着していないと思われる。イは、基本的な文構造及び「接続詞を含む文の語順」を問う問題である。文頭の「Because」の後に「主語＋動詞」を続けることはおおむね定着しているようであるが、問題に含まれる「many kinds of～」という表現の理解が不足していることによる誤答が多かった。ウは、「主語＋動詞＋間接目的語＋直接目的語」のうち、直接目的語が「that で始まる節」になる問題である。すでに与えられている「主語＋動詞＋間接目的語」にあたる「My father told me」に続けて並べ替える問題であるが、その後に「that で始まる節」を続けていない誤答が多く、「that で始まる節」を直接目的語とする文構造についての理解が十分ではないと思われる。(2)は、対話の流れから、空欄に入る適切な語を選ぶ問題で、正答率は約3割であった。空欄を含む文だけでなく、前後の対話の流れや資料から情報を読み取る必要があるが、「all」や「any」を選択した誤答が多かったことから、英文の理解が部分的なものであったと思われる。(3)は、日本語で書かれたメールの内容の一部を英文で書く問題である。下線部1では、「be 動詞＋過去分詞」という受け身の基本形が定着していないと思われる誤答が多く見られた。下線部2では、「wear」という語の理解が不足していることにより誤った動詞を使用した誤答が多かった。「wearing a red hat」という名詞修飾部分を文末に置く誤答も複数見られた。基本的な文法事項を適切に組み合わせて表現する力を育てていくことが重要である。

③は、高校生と留学生による、「ランニング」についての対話を題材とした問題である。(1)は、本文中の空所に入る最も適切な英文を選び、対話を成立させる問題である。正答率はA、Cがそれぞれ約6割、Bが約7割であった。(2)は、対話の内容を理解し、必要な情報や概要を選ぶ問題で、正答率は約4割であった。対話の内容を部分的に捉えるのではなく、全体の概要を把握しながら読み進めることが重要である。

④は、中学生による、「津軽三味線」についての発表を題材とした問題である。(1)は、発表の内容に合うように、要約文の空欄に適切な英語を書く問題で、正答率は、アが約6割、イが約5割、ウが約7割であった。(2)は、発表の内容についての質問に英語で答える問題である。正答率は、1が約4割、2が約3割、

3が約6割であった。いずれも、代名詞や動詞の時制を正しく用いていない誤答や、解答箇所以外を抜き出している誤答が多かった。(3)は、本文に関連した質問に対する自分の考えを、まとまりのある英文で書く問題である。内容が不十分なものや、冠詞や前置詞などの語の不足による減点が多かった。また、「I respect is my mother.」のように、基本的な英文構造の理解が不足していると思われる誤答も多く見られた。自分の考えや気持ちなどを整理して、状況に応じて、まとまりのある文章で適切に表現する活動を継続して行っていくことが重要である。

⑤は、中学生が、あるニュースを見たことをきっかけにして気付いた、「苦手を乗り越えて挑戦することの大切さ」についての発表を題材とした問題である。(1)は、本文の内容と合うように、与えられた語句に続く適切な表現を選び、英文を完成させる問題である。正答率は、アが約7割、イ、ウがそれぞれ約4割、エが約5割であった。英文の一部分を解答の根拠とするのではなく、文章全体の展開を捉えて概要を把握していく必要がある。(2)は、下線部の内容を日本語で説明する問題である。下線部「this」が指す箇所を正確に捉えられていなかったことや、「when I felt that something was difficult」の誤訳による誤答が多かった。無解答も多かった。when や that のような接続詞の役割を正しく理解し、複数の主語と動詞の関係が含まれる文構造を正確に捉えることが困難だったと思われる。(3)は、本文の内容と合うように、英文の空欄に入る適切な語を選び、要約文を完成させる問題である。正答率は、アが約3割、イが約6割、ウが約5割であった。この問題も、英文を部分的に捉えるのではなく、英文全体の概要を把握する力が求められる。

英語では、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、英文の概要や要点を正確に理解する力や、自分の考えや気持ちなどを整理し、状況に応じて、まとまりのある文章で適切に表現する力を育成することが望まれる。

### 問題別正答率 英語

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)			
1	ア 3 イ 3 ウ 3	英語による説明と質問を聞いて、適切なものを選ぶ。	42.8	4	ア 2 イ 2 ウ 2	発表の内容に合うように、英語の要約文の空欄に適切な英語を書く。	60.9			
			49.5				45.3			
			57.6				66.2			
	ア 3 イ 3 ウ 3	授業での連絡を聞いて、その内容についての質問に対する適切な答えを選ぶ。	76.7		1 3 2 3 3 3	発表の内容についての英語の質問に英語で答える。	42.6			
			86.0				32.4			
			61.3				57.8			
	ア 3 イ 3	対話を聞いて、その内容についての質問に対する適切な応答を選ぶ。	95.6		(3) 6	20語以上の英語で、自分の考えを書く。	平均点 2.7			
			74.1				平均点 2.7			
	(4) 3	英文と質問を聞いて、それに対する自分の考えを英語で書く。	平均点 1.3		5	ア 3 イ 3 ウ 3	本文の内容と合うように、与えられた語句に続く適切な表現を選び、英文を完成させる。	65.2		
	ア 2 イ 2 ウ 2	英文の意味が通るように、語句を並べかえる。	40.4					イ 3 ウ 3 エ 3	本文の内容と合うように、与えられた語句に続く適切な表現を選び、英文を完成させる。	37.9
			41.8							39.7
			19.6			52.5				
(2) 2	英文の意味が通るように、適切な語を選ぶ。	26.5	(2) 4	下線部の内容を日本語で説明する。		平均点 0.8				
		平均点 1.3				平均点 0.8				
		平均点 0.8				平均点 0.8				
(3) 2 3	下線部の内容を英文で書く。	平均点 1.3	ア 3 イ 3 ウ 3	本文の内容と合うように、英語の要約文の空欄に入る適切な語を選ぶ。		32.5				
		平均点 0.8				55.3				
		平均点 0.8				49.9				
	A 3 B 3 C 3	対話を読み、対話が成立するように空欄に入る最も適切な英文を選ぶ。				61.7	(1) 2 2 2	対話を読み、必要な情報や概要を選ぶ。	42.8	
						67.7			42.8	
					62.3	42.8				